

第2回地域自立のための「人づくり・学校づくり」実践委員会

令和元年7月30日（火）
午後3時から5時まで
特別第一会議室（別館9階）

次 第

1 開会

（1）知事挨拶

2 議事

（1）報告

第1回静岡県総合教育会議開催結果

（2）意見交換

生涯にわたり学び続ける教育の充実

（3）その他

3 閉会

<配布資料>

資料1 第1回静岡県総合教育会議開催結果

資料2 生涯にわたり学び続ける教育の充実に関する論点

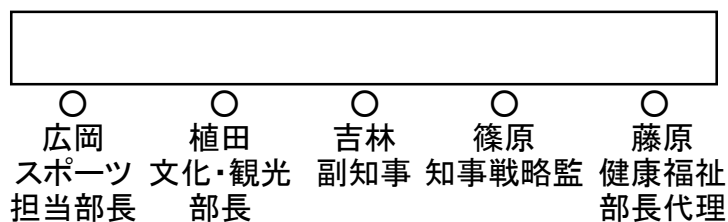
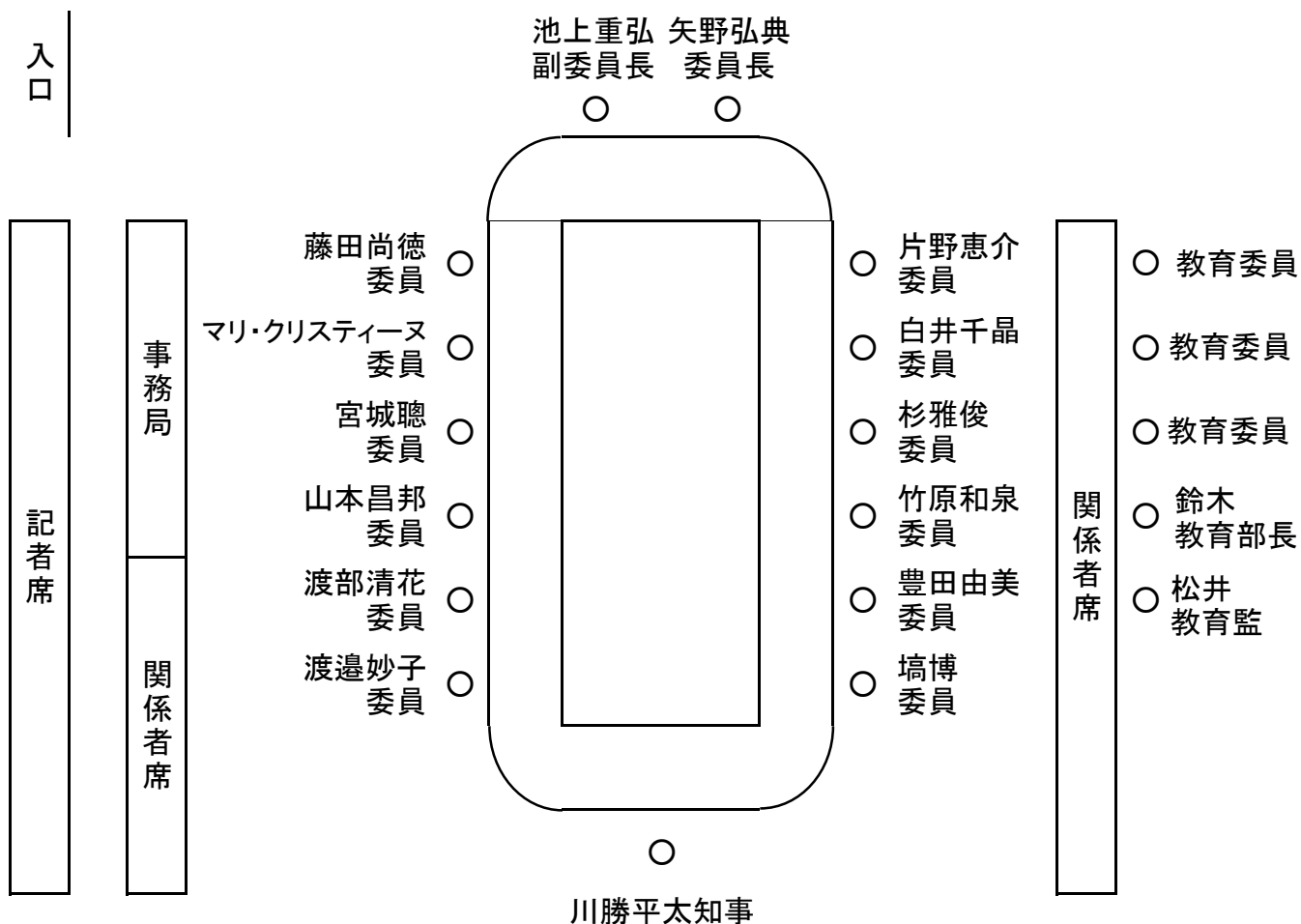
別冊資料 ・ 第2回実践委員会参考資料

・ 静岡県子どもの安全確保緊急対策アクション

第2回地域自立のための「人づくり・学校づくり」実践委員会 座席表

日時 令和元年7月30日(火)午後3時～

場所 別館9階特別第一会議室



地域自立のための「人づくり・学校づくり」実践委員会委員一覧

(委員長、以下 50 音順、敬称略)

氏 名	役 職
やの ひろのり 矢野 弘典 (委員長)	(一社) ふじのくにづくり支援センター理事長
いけがみ しげひろ 池上 重弘	静岡文化芸術大学副学長
かたの けいすけ 片野 恵介	青年農業士
かとう あきこ 加藤 暁子	日本の次世代リーダー養成塾専務理事、事務局長
きよみや かつゆき 清宮 克幸	ヤマハ発動機ジュビロアドバイザー・(一社) アザレアスポーツクラブ代表理事
しらい ちあき 白井 千晶	静岡大学人文社会科学部教授
すぎ まさとし 杉 雅俊	静岡産業大学総合研究所参与
たけはら いずみ 竹原 和泉	横浜市立東山田中学校ブロック学校運営協議会会長
とよだ ゆみ 豊田 由美	ちやの ^き 生代表
なかみち いくよ 仲道 郁代	ピアニスト、桐朋学園大学音楽学部教授
ばん ひろし 埴 博	藤枝明誠中学校・高等学校校長
ふじた ひさのり 藤田 尚徳	株式会社なすび専務取締役
マリ クリステイヌ	異文化コミュニケーター
みやぎ さとし 宮城 聡	(公財) 静岡県舞台芸術センター芸術総監督
やぶた てるあき 藪田 晃彰	日光水産株式会社代表取締役社長
やまもと まさくに 山本 昌邦	(一財) 静岡県サッカー協会副会長
わたなべ さやか 渡部 清花	東京大学大学院総合文化研究科修士課程
わたなべ たえこ 渡邊 妙子	(公財) 佐野美術館理事長

1 開催日時 令和元年 6 月 18 日（火）午後 3 時から 5 時まで

2 開催場所 静岡県庁別館 8 階第 1 会議室 A、B、C

3 出席者

静岡県知事	川勝 平太
教育長	木苗 直秀
教育委員	渡邊 靖乃
	藤井 明
	加藤 百合子
	小野澤 宏時
地域自立のための「人づくり・学校づくり」実践委員会	
委員長	矢野 弘典

4 議事

- (1) 国内外で活躍できる人材の育成
- (2) 子供の安全対策の強化

5 出席者発言要旨（抜粋）

出席者から以下のような提案が出された。

＜論点 1：国際イベントの開催に伴う国際交流を通じた特色ある教育の推進＞

- ・せっかくの国際イベントだから観に行こうだけでは単にお祭りで終わってしまう。例えばラグビーワールドカップでは、教本や試合観戦をとおして海外の一流選手やチームの意識や考え方を学ぶ機会として活用するべきである。
- ・ワールドカップ後もラグビーに触れる機会を提供していくために、各学校で実施するラグビー授業については、先生方の負担とならないよう、ある程度派遣された選手に進行等を任せ方が良いのではないかな。
- ・ラグビー観戦に招待した児童生徒を試合終了まで強制的に残す必要は無いのではないかな。試合終了まで観戦した場合は、一斉解散ではなく小学生を最初に退場させるなど混雑を避ける工夫が必要である。
- ・ラグビー観戦については、子供たちにどうしたいのかを徹底的に議論させて、各学校が結論を出して対応していけば良いのではないかな。
- ・留学生の受け入れについては、空き家をシェアハウスとして活用し、地域の方々で面倒をみてもらうようにすると良いのではないかな。
- ・小、中、高校すべての学校で姉妹校を持つようにしてはどうか。国外が難しいようなら、国内でも良い。また、日本の修学旅行制度を海外に紹介して、海外の生徒たちが日本に修学旅行に来るような働きかけをしてみてもどうか。

- ・静岡県には、外国生まれ・外国育ちの家族がたくさん生活している。多文化共生の視点からそうした方々との交流をもっと大切にした教育を進めてはどうか。
- ・多様性を理解し、包容力を持って対応する力が教員に不足している。多様性に不可欠なディベート力や発言力等を子供たちに身に付けさせるためにも、教員の意識改革や、国内外での研鑽に更に力を注いでいく必要がある。
- ・教員の国際化のために、青年海外協力隊への現職教員の派遣制度をもっと活用すると良い。海外で得た経験を教育現場で活かせるので、子供たちにとっても良い学びになる。
- ・県として、「ふじのくに地域・大学コンソーシアム」をもっと活用し、イベント等を通じた留学生との交流など新しい形を築いていくと良いのではないか。

<論点2：県立高校における魅力ある教育環境の充実>

- ・新構想高校への改編については、選択肢は必ずしも一つではない。統合して成功した例もあるが、そうではないケースもあるので、弾力的に対処していく必要がある。
- ・高校の評価を大学の進学実績でみるのではなく、自己肯定感を高めることができた生徒数や、多様性への理解を深める教育の成果などを評価できるような県としての教育方針があっても良いのではないか。

<子供の安全対策の強化について>

- ・児童生徒の登下校時の見守りに関して、通学路に面している或いはその付近に所在の民間企業の力を利用することはできないか。また、交差点の四隅に設置するポールの強度を車の衝突に耐え得る程度に高めたり、狭い道路での自動車の通行を禁止したりするなど少しでもリスクを減らす手立てが必要である。
- ・会社を引退した人を交通指導員として活用するなど、地域コミュニティで問題を解決し、子供たちを守るようにしていくべきである。
- ・子供にとって自転車による事故は大変危険なので、道路に自転車専用道路のカラーリングをしてもよいのではないか。
- ・犯罪そのものの発生を抑制するという観点から、孤立傾向にある成人を社会で孤立しないよう地域全体で取り組んでいく必要があるのではないか。
- ・高齢者の交通事故が増加していることについて、個々の運転能力の程度によって運転できる範囲や時間帯を限定する制限免許制度を国が定めても良いのではないか。高齢ドライバーが悪いと決めつけるのではなく、より適切な運用をするという方向で考えてはどうか。

6 知事総括

- ・県政に活かせる御意見を多々いただいた。具現化できるものは速やかに実行し、スピード感を持って遂行していく。今日の議論が無駄にならないようにして行きたい。

国内外で活躍できる人材の育成に関する論点

グローバル化が急速に進展する社会において、子供たちに豊かな国際感覚とコミュニケーション能力を育む機会を提供し、世界の中の静岡を認識し、国内外で活躍できる人材を育てていくことが必要である。

本県では、ラグビーワールドカップ2019、東京2020オリンピック・パラリンピック及び同文化プログラムが開催されることから、これらの国際イベントの開催を契機に、国際交流を通じた特色のある教育を推進することが重要である。

また、国内外で大いに活躍できる人材の育成に資するよう、県立高校においても、魅力ある教育環境の充実に取り組むことが重要である。

論点1：国際イベントの開催に伴う国際交流を通じた特色ある教育の推進

ラグビーワールドカップ2019や東京2020オリンピック・パラリンピック及び同文化プログラムなどの開催を契機に、国内外で活躍できる多様性のある人材を育成するために、具体的にどのような取組が考えられるか。

論点2：県立高校における魅力ある教育環境の充実

県立高校において、国内外で活躍できる人材を育成するための教育環境を充実させるために、新たな学校、学科等の設置や学年・学級規模の在り方を含め、具体的にどのような取組が考えられるか。

実践委員会の意見の総括

<論点1：国際イベントの開催に伴う国際交流を通じた特色ある教育の推進>

- ・ラグビー観戦に招待した児童生徒が、世界的イベントを途中帰宅することなく最後まで観戦できるようにするために、保護者へは帰宅時間が遅くなることを事前連絡の上、安全確保のために細かい約束事などをつくって説明し、理解を求めると良い。
- ・観戦を招待する児童生徒の中で、ラグビーに興味を持っている子とそうではない子を整理すると良い。また、子供たちに本物のスポーツとして観戦させたいのか、一方、ラグビーをたくさんの人に触れさせたいから観戦させるのか、その目的によって手法が変わってくる。
- ・最後まで観戦することは基本だが、身体の弱い子や習い事がある子など個別の事情を持つ子供がいるので、それぞれに配慮があっても良いのではないか。
- ・大会当日の運営状況を学ぶ場や、大会後に担当者から大会誘致や広報等の話を聞く場など、運営側からの視点を学習できる機会があると良い。

<論点2：県立高校における魅力ある教育環境の充実>

- ・効果的な身近な国際化として、県内全ての県立高校に留学生を各1名受け入れてはどうか。課題としては、留学生を預かれるホストファミリーがなかなか見つからないことがある。また、教員の海外研修について、海外派遣数をもっと増やすことはできないのか。
- ・グローバル人材の育成はローカル人材の育成に繋がるので、生徒が自ら進んで地域活動を行うようにする教育が必要である。
- ・新構想高校への改編については、地元の意見を尊重し、実際に現場を見て、将来のためにどうあるべきかを考えて議論するべきである。
- ・スポーツ科の設置では、トップ選手の育成には充実した施設と優れたコーチが不可欠であるので集中的投資が大切である。観光科の設置では、県内の高校、大学、企業との縦の繋がりができると素晴らしい。演劇科の設置では、演劇科の生徒と普段演劇に縁の無い高校生との交流の場を地域でつくと良い。

国内外で活躍できる人材の育成に関する実践委員会の意見

論点1：国際イベントの開催に伴う国際交流を通じた特色ある教育の推進

小中学生のラグビーワールドカップ観戦に関する意見

- 観戦を招待した児童生徒が、帰宅時間が遅くなるといった理由で世界的イベントを途中退席することなく、保護者や地域、ボランティアの協力を得て安全を確保することで、試合終了まで観戦できるようにすることが大切ではないか。（清宮委員）
- 子供たちの観たいという興味が大切である。本当に観戦したい子や保護者を招待しないと意味が無いのではないか。保護者には、事前に帰宅時間が遅くなるなどデメリットを伝え、理解してもらった上で招待しないと、誤解が生じるのではないか。（豊田委員）
- 小中学生にとって、試合終了時刻が完全下校時刻を過ぎていることから、学校教育の中だけではなく、地域総がかりで教育をするという視点が必要であり、地域コーディネーター等が先生方と共同して引率することや、細かい約束事項をつくって保護者に確認を取ると良いのではないか。（竹原委員）
- 招待する児童生徒の中で、ラグビーに興味を持っている子とそうではない子を整理すると良い。世界レベルの試合を観戦することで、世界を目指そうとする子供が出てくるので、参加する団体が興味関心を高め、最後まで観戦できる方法を保護者の了解を得て実施すると良いのではないか。（山本委員）
- ラグビーを観戦させる目的がぶれないようにすることが大事である。本物のスポーツを観せることが目的であれば、試合終了まで観戦して最後までやり切ることの大切さを参加者に伝える。一方、ラグビーをたくさんの人に触れさせることが目的であれば、途中退席しても帰りのバスで観戦できるようにしてラグビーを経験させるなど、目的によって手法が変わってくるのではないか。（藤田委員）
- 最後まで観戦することは基本だが、身体の弱い子や習い事がある子など個別の事情を持つ子供がいるので、それぞれに配慮があっても良いのではないか。（矢野委員長）

- 滅多にない世界大会の運営のマネージメントを学ぶ機会として、大会当日に運営状況を学べる場や、大会後に担当者から大会誘致、広報、準備等について学べる場をつくるなど、運営側からの視点を学習できる機会があると良いのではないか。(杉委員)

県内のスポーツ振興に関する意見

- 県内各地域で世界的なスポーツイベントが開催されている。世界のトップ選手のプレーや技術を見て、肌で感じることで子供たちは興味を持って好きになっていくので、それぞれの地域が持つスポーツイベントについても県で後押しして欲しい。(藪田委員)

その他の意見等

- 国内外で活躍できる人材の育成という視点から、障害のある外国籍の児童生徒及びその保護者に対して、日本語サポートや日本で生活していく上で必要な知識や技術の習得機会を特別支援学校や特別支援学級のカリキュラムの中に組み入れていくことはできないか。(豊田委員、池上副委員長)

論点 2 : 県立高校における魅力ある教育環境の充実

教育環境の充実に関する意見

- 留学生が一人学校に入ると化学変化が起こり、日本の高校生への大きな刺激となる。日本の高校で農業・工業・商業などを学びたいと希望するアジアの学生は多いので、効果的な身近な国際化として、普通科に限らず県内全ての県立高校に留学生を各1名受け入れてはどうか。ただ、留学生を預かれるホストファミリーがなかなか見つからないことが課題である。(加藤委員)
- 世界はもっと多様であることを教員が知らないと言徒たちに伝える事ができない。多くの教員が海外に出て見識を広げるために、教員の海外派遣数をもっと増やすことはできないか。(宮城委員)
- グローバル人材の育成は、ローカル人材の育成に繋がる。地域が自立できない側面があることから、学校は地域と一体でなければならない。生徒が自ら進んで地域活動を行うようにする教育が必要である。(埴委員)
- 新構想高校への改編については、色々な選択肢があって良いが、地元の意見を尊重して進めていくべき事項なので、紙資料をベースに話し合うのではなく、実際に現場を見て、将来のためにどうあるべきかを考えて議論を進めていくべきである。(矢野委員長)

新学科の設置等に関する意見

〔スポーツ科〕

- スポーツ科を設置する場合は、充実した施設と優れたコーチがいなければ全国のトップレベルにすることは難しいので、集中的に投資することが大切である。（山本委員）

〔観光科〕

- 県内大学でも観光に関する専門的なカリキュラムが始まっている。高校時代からの実践的な学びを経て、強い動機をもった生徒が県内の大学で更なる学びを深め、そして県内の観光関係の仕事に就いて静岡県の魅力を発信できるといった繋がりができると素晴らしい。（池上副委員長）

〔演劇科〕

- 今の学校教育では、人と違うことを考える若者を育てることは難しい。正解のない演劇を学ぶ場がもっと広がらないか。高校時代に世界第一線のアーティストと接することは意味があるのではないか。また、演劇科の生徒と、普段演劇に縁の無い高校生とが、演劇を通じて交流できる場を地域でつくと良いのではないか。（宮城委員）

その他の意見等

- 世界で活躍する子供を育成するためには、中学校から改革していくことが重要である。一芸に秀でた子の中学校3年間をどのように指導していくか、また才能のある子にどのように刺激を与えていくかが大切である。（山本委員）
- 最近では、演劇科を設置している大学が増えており、演劇の道に進みたい学生は最初から演劇科に進学している。そのため、他学部の学生は演劇をやっている面白い人たちと接する機会が無い。可能であれば「ふじのくに地域・大学コンソーシアム」の中で演劇を授業として組み込ませてもらえたら良いのではないか。（宮城委員）
- 高大連携について、静岡県には「ふじのくに地域・大学コンソーシアム」が設立されており、異文化交流での留学生の活用や、スポーツをとおした地域づくり、アートをとおした県内産業の活性化など、高校の観光科や総合学科等との連携をもっと進めていけるのではないか。（白井委員）

生涯にわたり学び続ける教育の充実に関する論点

技術革新やグローバル化の更なる進展等により、様々な変化が予想される中、誰もが生き生きと活躍し、豊かで安心して暮らせる社会を実現するためには、生涯にわたり主体的に学び続けられる環境の整備が必要である。

そのためには、小学校から高等学校にかけては、基礎的・基本的な知識・技能と思考力・判断力・表現力等を身に付けさせるとともに、主体的に学習に取り組む態度を養うことにより、確かな学力の向上を図ることが重要である。

さらに、一人一人が様々な社会変化を乗り越えながら、生涯にわたって学び続ける意欲を保ち、ライフステージに応じた学びの機会を確保できる環境づくりが重要である。

これらの取組により、生涯を通じて「才徳兼備」の人材を育む教育を推進していく必要がある。

論点1：確かな学力の向上

確かな学力の向上に向けて、新しい時代に必要となる資質・能力を育成し、きめ細かな教育を進めるためには、具体的にどのような取組が考えられるか。

【検討の視点】

- ・知識の理解の質を高める読解力、論理的思考力等の育成
- ・英語教科化に対応した外国語教育の充実
- ・全国学力・学習状況調査の効果的な活用
- ・優れた能力を更に伸ばすことのできる教育の充実

論点2：ライフステージに対応した教育の充実

それぞれのライフステージにおいて、誰もが必要な知識・技能を身に付け、自らの可能性を最大限に伸ばすことのできる教育を実現するために、具体的にどのような取組が考えられるか。

【検討の視点】

- ・社会人の実践的な職業教育や学び直しへの対応
- ・社会人を対象にした学習機会の充実
- ・高等教育機関（大学等）と初等・中等教育（小学校～高等学校）との連携の在り方